

# ダイコン



(10アール当り)

時期	方法	資材と施用法
土作り	なるべく早めに 播種までに20日以上 おく	<ul style="list-style-type: none"> <li>●堆肥1トン以上(なるべく多く) ※堆肥・有機物が無い場合は、米ヌカ120kg以上。</li> <li>●ラクトバチルス600g →堆肥を安全に土中醗酵させ、膨軟で、通気の良い土壌にする。</li> <li>●硫安80kg ※もし通常の配合肥料を使う場合は、チッソ成分で16kg程度。 (硫酸カリ30kg … 砂地で堆肥が乏しい場合)</li> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 60kg (酸性土壌なら80~100kg) ※カルシウム栄養供給と、土壌酸性の中和も行う。 酸性に比較的強い作物だが、pH5.8以下では生育が劣る。 ※土壌pHが酸性でない場合は畑の大将&lt;赤&gt;を。 ※カルシウムの施用は 整地後、ウネ上への散布でもOK。</li> <li>●マンゾク・粒状50kg →持続的に直根を強く伸ばし、生育を早く・強く進める。 特に連作畑や、線虫・萎黄病などが心配な畑では、それを防ぐ。 ※上記4~5種を同時に散布して、畑土を耕す。 ※大根では畑土を固まらず軟らかで、腐敗せず健全に醗酵した、通気 のよい状態にするために、耕起に万全を期す事。 ※土に塊を残さないようにして、キレイに整地する。</li> </ul>
播種後	播種の直後、 または4~5日後	<ul style="list-style-type: none"> <li>●根っ酵素500倍液を灌水(散水) →直根(主根)をスッと強く伸ばさせ、土壌病害にも強くする。 ※その後、間引き・土寄せをしたら、根っ酵素を灌水する。</li> </ul>
追肥	第1回・追肥 (播種後1ヶ月頃)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●硫安10kg(状況によっては20kg) 夏穫り:播種後25日頃の間引き(または土寄せ)の後。 秋・冬穫り:播種後30日頃の間引き・土寄せの後。 春穫り:播種後40日頃、間引きして1個所1本とした後。 ※間引き・土寄せの時(直後)に根っ酵素500倍で灌水して根を伸 ばし、それから5日程して硫安を散布することを推奨。この後、葉 数が増加、根重もついて来る。</li> </ul>
	第2回・追肥 (播種後50~60日頃)	<ul style="list-style-type: none"> <li>●硫安20kg(第1回から20~30日後に、状況を見て) 秋・冬穫り:播種後50日頃。(春・夏穫り:通常は不要)</li> <li>●畑の大将&lt;青&gt; 20kg ※土壌pH:6.5以上と高い場合は畑の大将&lt;赤&gt;を施す。 ※カルシウムは大根を美味しく、充実させる。 ※状況によって加減。葉色薄く、葉数が増えず、土壌にチッソ不足[EC: 0.2以下]なら硫安を追肥。 ※チッソが効いていれば[EC:0.3~0.4]カルシウムを追肥。 硫安とカルシウムは同時に散布できる。ただし混ぜたままで、撒か ずに時間を置くことはしない事。</li> </ul>
葉面散布 (適時、状況を見て)	根を伸ばし、生長増進	●根っ酵素500倍液を葉面散布
	充実促進・軟腐対策	●花咲くCa液500倍を葉面散布

夏穫り:3~5月播種 5~6月収穫(春宮、みの早生)  
 秋穫り:8月播種 10~11月収穫(青首、理想、耐病総太り) … 反射マルチ(アブラムシ予防)  
 冬穫り:9~10月播種 12~1月収穫(青首、耐病総太り、三浦、聖護院)  
 春穫り:11~12月播種 3~4月収穫(天春、時無、春福)

カルテック農法で作られた大根は、  
重く肌もきれい。食感はシャキシャキ  
とする歯ごたえがあり、甘みがある。